

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500237		
法人名	(医)加茂 医院		
事業所名	グループホーム やすらぎの丘		
所在地	佐賀県伊万里市大坪町甲2269-6		
自己評価作成日	平成26年10月2日	評価結果市町村受理日	平成27年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成26年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①家族様の面会が多いので、時間をかけて要望を聞く事ができ、入居者様の事も細かく報告が出来る事で信頼関係が深まっています。</p> <p>②夏祭りの開催やボランティアの人を受け入れる事で地域との関わりも出来ています。</p> <p>③週1回の主治医の往診と24時間の医療連携ができています。</p> <p>④本人様、家族様の希望があれば看取りを行います。</p> <p>⑤インシュリン注や在宅酸素の方の受け入れができます。</p> <p>⑥四季折々の行事食やドライブ、誕生日もリクエスト食を提供しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然に囲まれた閑静な住宅地に位置し、市街地に近く、病院やスーパーなど車ですぐのところにあり利便性に優れている。「真心・やすらぎ・思いやり」を理念とし、入居者の希望や思いを大切に支援が行われている。母体医院や他医療機関とも連携を取り、ターミナルの受け入れや母体医院からの毎日の看護師の訪問など、医療管理が行き届き、家族・職員との情報の共有もなされている。また、地域行事への参加をしたり、近隣の方を招く行事の開催、公民館を利用した運営推進会議の開催など、地域との関係作りも行われている。職員、管理者が一体となり、入居者の生活の支援に努められている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	Aユニット	Bユニット			Aユニット	Bユニット	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の理念の唱和や火事の時の避難場所を隣の方の庭を使わせてもらえるようになっている。	夏祭りを開催し地域の方に参加して頂いている。	朝の申し送りで理念を唱和することで職員が同じ意識を持ち、実践に活かすように努めている。また、理念に基づき年間・月間目標を掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	伊万里市の舞踊や民謡を見に行った。	伊万里市の福祉施設が出演する「ふれ合いステージ」で踊りを披露したり、入居者様の作られた作品を展示して、毎年参加している。	地域の行事の参加や、事業所主催の行事に住民が参加している。事業所の会議に公民館を利用するなど、地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の最新の情報提供や事例を報告して、職員がどの様に関わっているか、どのような介護をしているか伝えている。	伊万里市の認知症の家族の会「ひまわり会」に入っておられる家族の方にやすらぎの丘での、関わり方や脳トレ等を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難用の滑り台の設置の報告や滑り台を使つての感想反省を報告しアドバイスを受けた。	敬老会を見学に来て頂き、職員の接遇の状態や敬老会用のソフト食を実際に見て頂いた。	2ヶ月に1度開催し、区長・家族・行政の参加がある。事業所の行事に合わせて開催することもある。会議では助言や提案も多く出て、運営に活かしている。また、職員も運営推進会議に参加することで、職員全体で、日々の支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事がある時は、親身に対応して頂いている。(入居者様からの訴えがあり、戦没者の国債について調べて貰った)	入居前の要介護度が重かったことで、区分変更の申請を行い、要介護度が軽くなった。	市の担当者との連絡は日頃から取れていて、相談しやすい関係ができている。行事の案内も行き、都合がつけば参加されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修も行い、身体拘束は行っていない。	身体拘束の研修を行っている。だが、どうしてもベットの柵を乗り越えて降りようとするので4点拘束を行っている。家族にも承諾を得ているが、ユニット会議で必要か必要でないか検討をしている。	事業所での研修を行い、外部研修にも参加している。身体拘束を行う場合はカンファレンスとユニット会議で対応の検討がなされている。しかし、やむを得ず、ベットの4点柵を使用しているが、解除に向けた検討を重ねている。	これからも、解除に向けた検討を繰り返しながら、拘束に頼らないケアの提供を目指されることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に行った。打撲痕ができやすい入居者様は、ひやりはっと委員会等で原因を考え、ユニット会議で話し合いをし、全員で軽減に努めた。	外部の研修に行った。職員同志が思いやりを持ってゆとりのある介護が出来ている為、入居者様にも優しい介護が出来ている。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協の「あんしんサポート」を利用されている。社協の方からの相談もあり対応した。	ユニット介護等で話をした事はあるが、対象の方はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はホーム長が家族の方に1時間ほど時間を掛けて話しをし署名捺印を頂いている。改定については利用請求の際別紙を添付し、質問等はホーム長が対応する様にしている。	契約の際はホーム長が家族の方に1時間ほど時間を掛けて話しをし署名捺印を頂いている。改定については利用請求の際別紙を添付し、質問等はホーム長が対応する様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口に意見箱を設置している。家族の面会時に要望を言われた事で実行出来る事はスタッフ全員に周知に実行している。	運営推進会議で要望意見があった時は報告し、推進委員の意見も聞いている。	面会時に家族からの要望は担当者が確認を行い、全職員での情報の共有をしている。家族それぞれから意見は受けているが、家族会のような、家族からのまとまった意見としては、まだ受けにくい。	更に、家族間との交流などを通して、もっと意見をもらえるよう、家族が参加しやすい行事や場を設けられることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議(主任以上の会議)やユニット会議でスタッフの意見を聞き見直し等も行っている。	定例会議(主任以上の会議)やユニット会議でスタッフの意見を聞き見直し等も行っている。	ユニット会議は職員が発言しやすく、活発に意見が出ている。定例会議で職員の意見を検討している。管理者は、業務把握やコミュニケーションに努め、職員が相談しやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各役職手当や資格手当もあり、今月より夜勤の手当も増えた。	非常勤以外は全員正規職員になった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にあった外部研修を受け、研修報告書を提出し、全員が回覧し現場に生かしている。	防災リーダー研修にも参加し、防災訓練の担当者となり、年2回の訓練の責任者になった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	有田町のグループホームの研修に参加し、情報交換等も行っている。	伊万里市のコミュニティーケア会議に参加し、事例検討の話し合いをし、いろいろな施設の方の意見も聞く事が出来ている。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族からの要望を聞くことと、入居されて本人様から聞きとりと1カ月様子をみて当面の介護計画を立てている。	契約時に家族からの要望を聞くことと、入居されて本人様から聞きとりと1カ月様子をみて当面の介護計画を立てている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、重度化した時の話や面会、外出の事等詳しく話もするし、家族の要望も聞いて、職員に周知している。	契約時に、重度化した時の話や面会、外出の事等詳しく話もするし、家族の要望も聞いて、職員に周知している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と本人様が草むしりをする事が何よりの楽しみと希望があった為職員一人が側について草むしりをする時間を作って一緒に行った。	家族様より、リハビリ等を毎日して欲しいとの要望があったので、主治医に相談し本人様の気が向かれた時はお連れしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除機を掛ける時に、椅子を引いて下さる。洗濯物を干したりたたまる。	洗濯ものをたたまれる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	高カロリーが必要な方の家族様から食べやすい食品の差し入れあり、それを摂取して頂き体重の減少が無くなった事を報告すると定期的に送って下さるようになった。	家族の協力で本人様の希望で大好きな鰻を食べ行かれとても喜ばれていた。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に何回も自宅に帰って、家族の行事に参加したり、近所の方を呼んで楽しく過ごされる事がある。	以前からの行きつけの美容院に定期的に行かれパーマをかけたり、染めたりされている。	知人や近所の方の訪問があり、気兼ねなく過ごされるよう対応に努めている。馴染みの場へは、職員の付き添いや家族の協力を得て、入居前の環境を確認し、入居者の状態にあった支援方法を検討し、外出支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事は皆様一緒にされるので、食事の中に会話が弾んだり、介助されている入居者の方を心配さる言葉が聞かれる。	レクリエーションは皆様一緒に参加し、カルタは読める方に読んで頂いている。			

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に帰られた家族様が食事の内容やどうゆう物を良く食べていたか相談する事があるかもしれませんが、よろしく願います。といわれたが、退去後は相談はなかった。	やすらぎの丘に住変更をされていた方の書類の送付や住所変更の場所等を家族様に確認し変更した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向がある人は自分の思う様に過ごしておられる。意志が伝えられない人はその方体調で対応している。	元気な方が多いので、起床も自分が起きたい時に起きられるし、テレビを見たり自室で過ごしたり自由に過ごされている。	日常会話から入居者の意向を把握し、好みに応じた支援がなされている。発語の少ない入居者は、時間を取り意向の把握している。本人の意向は全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅から仏壇を持って来られている。	自宅におられた時は、毎日電気治療に行っておられたので、出来る限りお連れしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ラジオ体操や貼り絵等をして、出来る人はして、したくない方は他の事をおられる。全介助の方はマッサージ等を行っている。	歩行訓練を行っているが、その方に合わせれ、2周する人もいれば1周の方もおられる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングする時は、必ず家族の意向を担当者が聞く。ユニット会議で全員で話し合いケアの方法を決めている。	モニタリングする時は、必ず家族の意向を担当者が聞く。ユニット会議で全員で話し合いケアの方法を決めている。	担当者が入居者や家族の意向を確認している。会議で支援について話し合いがあり、全職員が計画の変更を含め理解している。状態変化に伴う支援変更も随時対応ができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ターミナルが近くなった方は特別に記録用紙を作り、状態が分りやすいように工夫している。	リハビリパンツを初めて使用される方の情報を共有して女性だったので、ピンクを使用すると、破ったりされていたので、白に変えるとその行動が無くなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の方にリクエストメニューを考えて頂き、食べて頂いた。	本人様の歩行等に不便が出てきたので、家族から一緒に外食が無理と言われた為、外食にお連れした。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1年に1回ふれ合いステージ(伊万里市の福祉施設が歌や踊りを披露したり、作品展示をする。)に参加して伊万里市民の方に見て頂いている。	1年に1回ふれ合いステージ(伊万里市の福祉施設が歌や踊りを披露したり、作品展示をする。)に参加して伊万里市民の方に見て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入れ歯が合わなくなられた方を歯科受診や眼科にお連れした。	自宅に居た時に罹っていた病院で薬の調整中なので、認知症の治療をかかりつけの病院でしたいと家族からの希望があり、その病院にお連れしている。	希望のかかりつけ医の受診を支援している。母体の医院からは、医師が週1回の往診と、看護師は毎日状態確認のため訪問がある。その他、夜間でも連携できる体制にある。他科受診の際は職員が付き添い、適切な医療が受けられる支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援	毎日朝のバイタルを母体の病院にFAXしその情報を主治医に報告して、11:00頃看護師が毎日容態観察や点滴等を施行している。	毎日朝のバイタルを母体の病院にFAXしその情報を主治医に報告して、11:00頃看護師が毎日容態観察や点滴等を施行している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	該当者はおられなかったが、入院された時は、洗濯物を取りに行ったり、MSWを情報を共有し退院の時期を打合せしたり、主治医と病院の主治医の連絡を取っている。	洗濯物を取りに行ったり、MSWを情報を共有し退院の時期を打合せしたり、主治医と病院の主治医の連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に係る指針を話し署名されている。ターミナルが近くなると主治医と家族が話し合い今後の方針を決め、それに従って支援をしていく。	契約時に重度化した場合の対応に係る指針を話し署名されている。ターミナルが近くなると主治医と家族が話し合い今後の方針を決め、それに従って支援をしていく。	契約時に終末期に関する指針を説明している。病状説明は医師より家族へ行われ、全職員へも情報の共有を図っている。支援方法は、状態変化に応じ、家族、主治医と協議を重ね変更している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異物除去法やAEDの訓練を職員全員で行った。	異物除去法やAEDの訓練を職員全員で行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練も消防署から来てもらいアドバイスをもらったり、原発の訓練も行い、反省点を話し合い、改善した。火災の時はホームの前の方協力で庭を避難場所に行っている。伊万里市防災リーダー養成研修に参加している。	ホーム長と各ユニット主任が話し合い本年度の反省と来年度の計画を立てるようになった。伊万里市防災リーダー養成研修に参加している。	年2回火災避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練も行っている。2階からの避難経路にはスロープが設置され、入居者の状況に合わせ誘導方法を検討している。避難場所は、隣家の庭も使用できる協力体制にはあるが、地域との具体的な連携までには至っていない。また、夜勤のみ勤務職員の避難訓練参加もこれからである。	地域の方が避難訓練へ参加しやすい、日程の検討や、役割分担を検討するなど、地域との協力体制がさらに進むことに期待したい。また、夜勤を行う全ての職員が、夜間想定火災避難訓練に参加できるよう、取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	悩み事の訴えがあらわれる時は、20分～30分時間を作り傾聴している。職員でだめな時はホーム長が時間を作り傾聴している。	難聴の方は居室で要望を聞いている。	入居者によって時間や環境を変え、言葉掛けを工夫している。排泄誘導は周囲に気配りをしながら言葉かけを行っている。会議では尊厳、プライバシーの見直しの話し合いを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	9月はリクエストメニュー月刊にして希望の食事を食べて頂いた。	毎週月曜日にヤクルトさんが来るので、自分で選んで好きな物を飲んでおられる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仲が良い方同志ソファーに座って一緒にテレビを観たり、話をしておられる。人と上手く付き合えない方は自室でテレビを観られている。	テレビを見たい方はテレビを見られるし、昼寝をしたい方はされている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる方でも、季節感が無い方は職員が衣替えを行っているので、好きな服を着られている。	スカートが好きな方は、スカートをはいておられる。全介助の方も朝起きた時に着替えて過ごされている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助以外の方は全員と一緒に食事をしている。上手く食べれない方がいる時は、ティッシュを出して拭く様に職員に言って下さる。会話が弾み笑い声も聞かれる。	皆様一緒に食べ始めるが、食べるのが遅い方が食べ終わるのを待つ、一緒にご馳走様を言う様にしている。	調理師が入居者の好みや希望を確認しメニューを作成している。食事形態は入居者の状態や希望に応じ、個別対応をしている。職員も一緒に食卓を囲み、楽しい雰囲気です食事を摂られている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日3回の食事摂取量の記入と10:00と15:00の水分の補給、入浴後の水分の補給を行い情報の共有が出来ている。	冷たいのが嫌いな方ばかりなので、温かいものやお風呂上がりは常温のポカリを提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方も言葉かけを行って必ずして頂いている。(忘れられるので)出来ない方は職員が行っている。	食後の口腔ケアは必ず行っているし、食前の動的口腔ケアも行っている。			

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿パットを使用され介助がいる方も、その方の状況に合わせてトイレ誘導を行い、排泄されていない時は、ゆっくりトイレに座って頂き出来るだけトイレで排泄してもらうようにしている。	尿パットを使用され介助がいる方も、その方の状況に合わせてトイレ誘導を行い、排泄されていない時は、ゆっくりトイレに座って頂き出来るだけトイレで排泄してもらうようにしている。	入居者個々の排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握している。トイレはカーテンがありプライバシーにも配慮がなされている。視力が弱い方のために手すりの設置位置がわかりやすいように工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多くとりれた食事や起床時にセンナン茶を飲んで頂いたり、10:00に牛乳やヨーグルトを食べて頂き自然には便が出来るように工夫している。	毎日の排便のチェックと運動や昼食後にはゆっくりトイレに座って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否があられる方は無理に言わず、次の日等にまたお誘いしたり、清拭や足浴を行っている。	入浴者が少ない時は、お風呂を好きな方に入って頂いている。	入居者の希望に沿って入浴日や入浴時間を変更している。入浴は言葉かけを行いながらゆっくり時間を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝たきりの方も起きておられる時は、好きな音楽を掛けている。食事が済んだら、部屋で読書をしたり新聞を読んで過ごしておられる。	夜中に、よくトイレに行かれる人はトイレの側の部屋にしたり、夜間壁を叩かれる方のベットを壁から離したりして工夫したり、部屋の移動も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の看護師の容態観察と、情報提供や週1回の主治医の訪問時に相談して内服等もこま目に変えている。	毎日の看護師の容態観察と、情報提供や週1回の主治医の訪問時に相談して内服等もこま目に変えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅ですっと百姓をされていた方と一緒に草むしりをした。踊りが好きな方を民謡や踊りの公演に連れて行った。	難聴の為他の方と一緒にレクリエーション等が出来られない為、計算問題等の脳トレが好きな方なので、その方に合った計算ドリルを購入し毎日されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と一緒に自宅に帰ったり、畑に行ったり、娘様の所に居てVTRを観て来たり、喫茶店に行かれたりしている。	行きつけの美容室から迎えに来てもらい希望がある時に行かれたり、職員が連れて行ったりしている。	事業所周辺の散歩やドライブなど外出支援を行っている。入居者、家族が、自宅への外出や外泊を希望された際は、職員が支援し個別対応を行っている。	

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルトさんに来てもらい自分で買える人は、自分の財布からお金を出して買い物をして頂いている。	ヤクルトさんに来てもらい自分で変える人は、自分の財布からお金を出して買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は、家族に電話をされたり、手紙や葉書きを出され週に1回は返事が来ている。	希望がある時は、職員が変わって電話をして本人様の希望を伝え衣類や布団等を持ってきてもらった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるように月毎に掲示を変えている。トイレは仕切りのカーテンをし、プライバシーを守っている。浴室も洗面所と脱衣所の間にカーテンをしている。	季節を感じるように月毎に掲示を変えている。トイレは仕切りのカーテンをし、プライバシーを守っている。浴室も洗面所と脱衣所の間にカーテンをしている。	リビングは南向きで明るく、季節感のある花やちぎり絵などの飾りつけがなされている。温度や湿度も確認し、適切な環境作りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全個室であるが、入居者様同志で部屋を尋ね話をされている時にお茶をだしたり、ソファで楽しくおしゃべりをされている。	ソファでテレビを観て楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスを持って来られたり、仏壇も持って来られている。	娘様がお母様の過ごしやすようにチェストや鏡、テーブルセンターを飾り家に居た時の様にされている。	入居前から使用されている物を持ち込まれている。居室内は入居者の要望で家具や飾りつけを変えたり、ベッドは入居者の状態に合ったものを貸し出すなど、心地よく過ごせる配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーだし、歩行が不安定な方も常に見守りをしている。歩行が不安定な方は職員二人介助で歩いて頂いている。箸を持てる方は出来る所まで自分でして頂き疲れて無理になってきたら、介助を行っている。	排泄が自立されている方も、拭き残しが無いか確認して清潔に過ごしておられる。		